

IOT投資と新規事業で



岡本晋氏

おかもと・すすむ 早大院、米コロンビア大院修了。経済産業省を経て12年長州産業入社、16年社長。47歳。
長州産業(山口県山陽小野田市)1980年(昭55)創業。主力の太陽光発電機器は国内で唯一、材料から製造まで一貫生産する。水素インフラやチョウザメ養殖と多角化。18年3月期売上高281億円、従業員650人。



松本敏治氏

まつもと・としはる 大阪府立大工卒、九大院修了、博士(工学)。日本分光を経て04年戸畑製作所入社、18年社長。39歳。
戸畑製作所(北九州市小倉南区)1948年(昭23)創業。純銅鋳物や非鉄金属加工・溶接に強み。高炉用羽口(送風口)、ステーブ(熱交換部材)の国内最大手。18年6月期売上高26億円、従業員130人。

三島 採用に関しては、以前は内定者のみで工場見学を実施していたが、今は会社説明会の段階で実施している。心に突き刺さるメッセージを伝えられるようホームページやDVD、ホームページやDVD、インタビューシートのプレゼントも刷新した。私も内定者に手紙を書いている。

合は紹介者に特別手当を付与するようにした。身元が安心して、紹介する側される側双方に緊張感や責任感が生まれる。高齢者も62歳までは給与を下げず、再雇用して技能伝承をお願いしている。本人が望めば65歳まで、会社との都合が合えば70歳以上でも在職してもらって構わない。

萩尾 古くからの事業は難しいが、光触媒のようは新しい事業の生産立ち上げ時に製造ラインの省人化は可能だ。北九州市戸畑区の技術開発センターを同若松区の光触媒工場隣に来年移転するが、これを機に技術者を1カ所に集めて相乗効果を追求する。

松本 管理部門の無駄をなくす取り組みは進んでいる。製造や溶接は機械加工に比べるとバラつきが多くなりやすく、純銅溶接は標準化が難しい。技術的な再現性を担保するため作業を数値化する。

萩尾 既存事業に縛られることなく、世相や金融、政治、経済動向に左右されにくいもの、健康や生活環境を著しく改善できるような技術開発を追求したい。

大学生の入社目標に対しては本年度はあと少しだが、辞退者もいるので会社の魅力を高め、伝える努力はこれからも続ける。高校生については訪問校を昨年比2倍に増やし、教員や保護者の会社見学会を実施している。

松本 現場は過酷だが、職業能力開発促進センターなどで学んで転職を希望する人などに選んでもらえるよう体制整備を進めている。本年度からは社内紹介制度を設けて、採用が決まった場

面取りを自動化した。これからは、せいたくな人使いはできなくなる。5軸マシンニングセンター(MC)も導入し、モデリングやCAM(コンピュータ利用製造)の取り組みも進んでいる。ブルーカラーでもホワイトカラーとも呼べる、双方に対応できる人材が人手不足解決の答えかもしれない。

松本 省人化や効率化のための投資だけではなく、いわゆる3K職場などの過酷な労働環境を少しでも改善するために投資することも重要な使命だ。

萩尾 両社とも、臭気対策で苦労している業界は産業界、食品・農畜産業界など数多い。下水道が整備されていない場所には浄化槽の設置が義務付けられているが、脱臭装置も間もなく事業化する。生活環境に関する独自製品があれば景気に左右されることも少ないだろう。

松本 現場は過酷だが、職業能力開発促進センターなどで学んで転職を希望する人などに選んでもらえるよう体制整備を進めている。本年度からは社内紹介制度を設けて、採用が決まった場

石橋 17年に産業用ロボットを導入し、電動ドリルライナーを使って手作業で加工していた歯車の

石橋 17年に産業用ロボットを導入し、電動ドリルライナーを使って手作業で加工していた歯車の

石橋 17年に産業用ロボットを導入し、電動ドリルライナーを使って手作業で加工していた歯車の

石橋 17年に産業用ロボットを導入し、電動ドリルライナーを使って手作業で加工していた歯車の

石橋 17年に産業用ロボットを導入し、電動ドリルライナーを使って手作業で加工していた歯車の

石橋和彦氏



いしばし・かずひこ 関西学院大経卒。93年石橋製作所入社、11年社長。48歳。
石橋製作所(福岡県直方市)1932年(昭7)創業。減速機などの歯車装置(ギアボックス)に強み。大型風力発電に利用する風車用増速機の国内最大手。17年9月期売上高36億円、従業員135人。

が企業価値を毀損するような検査工程は人が適切に関与する。どこまでが適切な自動化が見極める必要がある。

松本 中小企業も特定の分野で高い技術力を持つことが価値につながる。当社も銅やマグネシウムの技術では国内屈指の自負を持っている。日本に鉄鋼の技術者は万単位にいるが、特に純銅のよう用途が限定される非鉄分野の技術者は少ない。1万人で10位になるのは難しいが、10人で1位になるのは不可能ではない。ニッチトップを増やすことを目指したい。

三島 皆で10年後の姿を語り合った時、現状維持では明るい話題が少なかった。それでも経営者は皆を鼓舞し、変化に気づき、対応することが求められる。変革を主体的に起こせるようになりたい。どんな苦境にあってもその中心で旗を降り続け、社員に明かりを灯し続けるのが経営者の責務だろう。

水色カラーの人材育成がカギ 石橋氏

過酷な労働環境の改善は使命 萩尾氏

心に刺さるメッセージ伝える 三島氏

三島 景気低迷は必ずややって来る。リーマン・ショック後に風力発電事業は多くのプロジェクトが頓挫した。その日に

若手経営者 座談会